平成27年度決算議案を認定

決算特別委員会では、平成27年度一般会計決算（歳入額:5800億余円、歳出額:5715億余円）のほか12特別会計の決算、及び県立こころの医療センター事業会計など3事業会計に係る公営企業決算について、平成28年11月7日から9日まで審査を行い、審査の結果、両決算議案とも認定すべきものと決しました。12月19日の本会議において、谷洋一委員長から決算特別委員会における審査の経過・結果について報告を行い、採決の結果、決算議案を認定しました。

決算特別委員会

定数13人

◎谷　洋一	吉井 和視
○藤山 将材	中本 浩精
堀　龍雄	坂本　登
中西 峰雄	片桐 章浩
森　礼子	松坂 英樹
泉　正徳	中　拓哉
中村 裕一	

◎委員長　○副委員長

項目	件数	概要	結果
意見書	6件	平成29年度地方交付税の総額確保等を求める意見書	可決
		紀伊山地における国直轄による大規模土砂災害対策事業の強力な推進を求める意見書	
		「米政策改革」に対する稲作農家の不安を払拭し経営の安定と担い手経営の再生産の確保を求める意見書	
		意見書に対する関係行政庁等の誠実な処理を義務付けることを求める意見書	
		ホームドアの設置と「内方線付き点状ブロック」の整備促進等を求める意見書	
		地域防災力の向上と災害に強い防災拠点の整備のための財源確保を求める意見書	

最先端技術の利活用

問 最先端技術の利活用は、本県の発展に大きく寄与する分野であると思うが、県の考えや取組はどうか。

答 平成27年に策定した第2次和歌山県産業技術基本計画で、IT・ソフトウェア・通信技術分野や航空・宇宙分野を戦略的分野として新たに位置づけ、コーディネーターの配置や先駆的産業技術研究開発支援事業、工業技術センターにおける新技術開発支援体制の充実等により県内企業の最先端技術の開発を支援していきます。

県工業技術センター

テレワークの普及

問 本県でも「テレワークフェア」を開催されたが、今後のテレワークの普及について、どう取り組んでいくのか。

答 テレワークは地方創生にも効果が期待されていることから、フェアにあわせて市町村の担当職員に向け、事業者から先進事例等を紹介するセミナーも開催したところです。引き続き、セミナーや研修会の開催、情報提供などテレワークの周知普及に取り組んでいきます。

今後の本県の教育

問 これから道徳の教科化が実施され、いよいよ次期学習指導要領での教育が開始される。今後の和歌山県教育の方向についての所見を伺いたい。

答 本県の教育については、確かな学力、豊かな心、健やかな体の「知・徳・体」を基盤として人間としての総合力を備えた人材の育成をめざしています。そのため、現在策定を進めている新長期総合計画においても児童生徒が主体的に学ぶ授業や補充学習の充実、道徳教育・ふるさと教育の推進、計画的な体力づくり等をかかげることを検討しています。

レイディ・ワシントン号

問 レイディ・ワシントン号が串本町大島沖に来航したことを裏付ける航海日誌が見つかったことについての感想はどうか。

答 日本が鎖国政策をとっていた当時、既にレイディ・ワシントン号が北西航路を開拓してアメリカと中国が貿易を行っていたなど、地球規模で物事を考えると大変興味のあることが出てきます。子供たちが新たな歴史に触れることで、定説を鵜呑みにせず自分自身で物事を深く考えることの大切さに気づかされる、意義深い資料であると考えています。

レイディ・ワシントン号

ペリーの黒船より62年も前に日本に来航した最初のアメリカ船

レイディ・ワシントン号模型
（串本町提供）

砂防事業の促進

問 紀伊半島大水害で発生した土砂崩壊は、規模が大きく広範囲であり、復旧には多額の予算と高度な技術力が必要である。今後どう事業を促進していくのか。

答 今年度までの国の直轄砂防事業の実施で安全度がかなり確保されつつありますが、まだ完成ではなく、さらなる対策が必要です。本県側はもちろん、奈良県側の早期完成についても国土交通省にお願いしており、本県だけでは難しい事業は、国直轄の高度な技術で復旧してもらうよう働きかけていきます。

砂防ダム（日高川町皆瀬地内）

ため池の安全対策

問 ため池改修加速化計画の進展状況はどうか。

答 平成24年度にため池改修加速化計画を策定し、比較的規模の大きいかんがい受益面積5ヘクタール以上かつ貯水量1000立方メートル以上の772カ所のうち、223カ所の池について、県が事業主体となり改修に取り組んでいます。平成28年度現在では49カ所で改修に着手しており、平成38年度までに全て整備する計画で進めています。

小中学校の学力の向上

問 平成28年の全国学力・学習状況調査で、和歌山県は中学校数学Aを除き、平均正答率が全て全国平均を下回っていた。学力向上のための今後の取組はどうか。

答 学力向上については、学力向上対策中期計画に基づき、取組を進めています。学校では、授業の目標の提示、考えを表現する場面の設定、学習内容の定着の確認をまとめた「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」を徹底するとともに、子供一人一人のつまずきに応じた補充学習に取り組んでいます。

幼児教育の充実と新たな推進体制

問 幼児教育の充実について誰がリーダーシップをとるのか、明確な新しい体制づくりが必要ではないか。

答 保・幼・小の関係者が、子供たちの学びを連続したものと捉えられるようリーフレットを作成して研修会等で活用していきます。また、就学前教育の観点から新たな体制をつくり、幼児教育の充実に取り組んでいきます。

すみだこども園（橋本市）